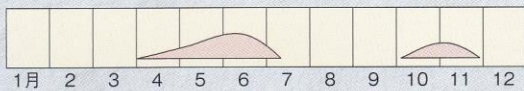


害虫編

ネギアブラムシ

葉に体長2mmで黒褐色、光沢のあるネギアブラムシが発生し、特に5～6月に多発することがあります。葉に群がって吸汁するため、多発すると株の生育が阻害されます。また、ネギアブラムシはネギ萎縮病を媒介します。

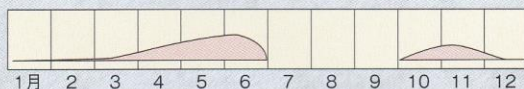


ネギアザミウマ

体長1.5mmの黄色または褐色の細長い虫が周年発生し、4～6月と10～11月に多発します。葉の表面を吸汁してかすり状の銀白色または黄白色の白斑が生じ、発生が多いと葉全体が白化します。また、芯葉が発育不良となり、葉が変形、萎縮することもあります。さらに、ネギアザミウマはアイリス黄斑ウイルスなどウイルス病を媒介します。

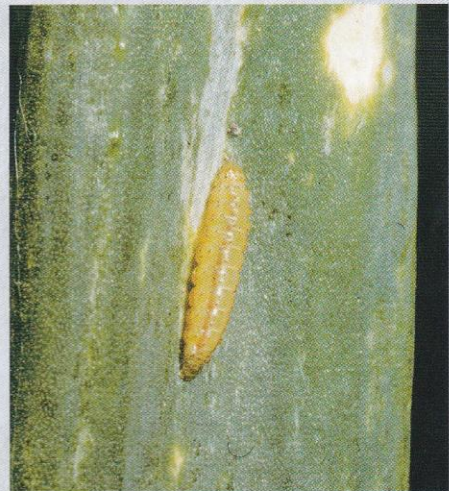


▲ネギアザミウマの被害

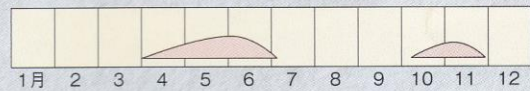


ネギコガ

成虫は羽の開張10mm、灰黒色の蛾です。幼虫は大きくなると体長8mm、淡緑色で褐色の条班があり、細い毛がまばらに生えています。若齢幼虫は葉肉内に潜入して食害し、葉に蛇行した線状の白斑が現れます。発生が多いと葉全体が白化し、枯死することもあります。幼虫は十分に成長すると葉の表面に出て繭を作って蛹化します。4～6月と10～11月に発生が増えます。



▲(木村 裕 原図)



ヨトウムシ類

ハスモンヨトウが8～11月に、ヨトウムシ(ヨトウガの幼虫)が5～6月と10～11月に発生します。成虫は卵を100～200ほどの卵塊で産卵するため、小さい幼虫は集団で葉を食害します。幼虫は大きくなると体長が3～4cmとなり、昼間は土の中に潜み、夜間に地上に現れて葉を暴食します。

卵塊や幼虫の集団を見つけたら、葉ごと捕殺します。



▲ハスモンヨトウ

▲ヨトウムシ

